

鳥取大学における産業動物臨床教育の現状について(平成28年度)

鳥取大学農学部共同獣医学科 獣医繁殖学教室 教授 菱沼 貢

鳥取大学農学部の獣医学科は、平成25年度より岐阜大学との共同獣医学科となっています。鳥取大学と岐阜大学で共通の獣医学教育を行うため、授業カリキュラムを大幅に変更し、授業の実施方法も対面式、遠隔講義、教員移動型、学生移動型と多様になりました。新しいカリキュラムは学年進行にあわせて実施しています。共同獣医学科1年次学生への産業動物臨床教育も平成28年度で4回目となり、実施方法も毎年改善していきますので、今回はその内容を紹介します。

共同獣医学科の1年次科目「獣医学概論 II」では、鳥取大学教員が遠隔教育システムを使用して産業動物獣医師の役割を講義し、「大学入門ゼミ」では、鳥取大学教員が海外の大学における産業動物臨床教育について対面式で講義をしました。さらに、「大学入門ゼミ」では、農学部附属フィールドサイエンスセンターの牛舎において基本操作（防護服を着る、牛を触る、長靴を洗う等）のグループ実習を行いました。

共同獣医学科の1年次科目「大学教育導入演習 I」（=学生移動型の合同授業）では、鳥取大学の1年生35名と岐阜大学の1年生32名、計67名を対象として、鳥取県立大山青年の家を使用して2泊3日（8月22～24日）で学外実習を実施しました。鳥取大学から教員5名、職員1名とティーチングアシスタント2名（3年次学生）が参加しました。移動にはバス2台と公用車3台を使用しました。岐阜大学の学生は、岐阜大学からバスで6時間かけて鳥取大学に移動し、さらに2時間かけて大山青年の家に移動しました。大山青年の家では、直前実習として、翌日の学外実習の予習を夕食後に行いました。畜産試験場では6班構成で施設見学（牛の精液採取・検査、超音波検査、搾乳）と講義を行い、大山放牧場では3班構成で畜舎衛生の実習（牛舎内の温湿度、風速の測定）と放牧地見学を行いました。各班は鳥取大学と岐阜大学の学生の混成としました。

「大学教育導入演習Ⅰ」は8月に実施のため、猛暑による体調不良や台風による実習中断などが過去にあり、トラブル発生を想定した上で対応をしています。実習後にはアンケート調査を実施して課題を抽出し、次年度の授業改善に向けて準備をしています。

「大学教育導入演習Ⅰ」の見学・実習を引き受けていただいた鳥取県農林水産部 畜産試験場と公益財団法人 鳥取県畜産振興協会 大山放牧場の関係者各位に感謝いたします。

写真1 大山青年の家での直前実習



写真2 畜産試験場における牛の精液採取の見学



写真3 大山放牧場にて



写真4 学外実習終了後の集合写真

